

No. 1140

華麗なる競演

— '75 国際選抜体操 —

モントリオールオリンピックを目指し6ヶ国25人の選手が競演した1975年度国際選抜体操競技大会。

去年の中日カップに優勝したソ連のドロノワやアンドリアノフが欠場、ファンをがっかりさせたものの未来のホープ14才の日本の岡崎やソ連のフィラトバが大会に花をそえた。

11月15日初日女子平均台。東ドイツのエッシャー。安定した演技で初日を終え、ソ連のツリシチェワと激しいトップ争い。去年に引きつづき中日カップを狙う日本、梶山のつり輪。スピードとシャープな技の決めで初日を終わりトップ。女子床運動。変化のあるジャンプで技をつなぎバラエティーな演技で9.65と最高点をマークしたソ連のキム。

2日目男子あん馬。ミュンヘンオリンピックの種目別あん馬で優勝した新鋭ハンガリーのマジャール。この中日カップでも実力を発揮、最高点をあげた。体操の女王にふさわしいダイナミックな演技で観客を湧かせたソ連のツリシチェワ。

愛知県体育館で2日間にわたって行なわれた国際選抜体操競技大会。男子は梶山が2年連続優勝、女子は新鋭東ドイツのエッシャーがわずかの差でツリシチェワを抜いて優勝、華麗なる競演を終えた。

将 棋

もうすぐ雪の季節を迎える山形県天童市は将棋で名高い町。全国生産の96%をしめると言うだけあって、町のいたるところに将棋の看板が立っている。町内でただ一人、玉切りの仕事をやっている五十嵐松雄さん。これは一本の木を駒の高さに切っていくもので、簡単に見えるが大きさのそろった美しい駒を作るために重要で難しい作業。“ハマ”と呼ばれる木を割る大割り、そして危険の伴う荒切り。ここで一つの駒の原型が作りあげられる。うるしで一つ一つ書きあげていく書き駒、熟達した書き方は1時間に200枚もの駒を書く。奥さんたちの内職も多いが堀り駒ができるようになるには最低5年はかかる。

何人もの人達の手を経て、最後は駒を洗って美しい将棋が誕生する。第一回将棋の日の11月17日、蔵前国技館では公式タイトル戦の初公開対局が行なわれた。大山康晴棋聖対中原誠十段の十段戦第2局。千五百万といわれる将棋ファン、手作りの駒の魅力も手伝って将棋ファンはまだまだ増えそうだ。